

1班 源氏物語



『源氏物語』とは、平安時代中期に成立した日本の長編物語であり、紫式部によって描かれた恋愛小説です。

主人公は光源氏で、そのまわりに出てくるたくさんの女性との関係が描かれています。

今回は、男女二体の衣装を制作しました。二体のこだわりのポイントとして、男性のポンチョと女性のスカートに同じ色と柄の生地を取り入れました。それに合わせた染色を行いました。

1-1



◆担当アイテム：マント

◆使用素材：キュプラ、チュールレース

平安時代の衣服は裾を引きずっているものが多いように感じたため、腰に巻いたときに引きずる長さで、裾が広がるようにデザインした。また、腰に巻くだけでなくマントとしても使用するため、リボンで留めることにした。マントの裾につけるチュールレースを、よく見たらうっすらと黄色に見えるか見えないかぐらいの色にすることにした。

1-2



◆担当アイテム：トップス

◆使用素材：表地：綿金巾、裏地：キュプラ
和風の要素を取り入れつつ、現代の要素も取り入れたデザインにした。男性は袴をワイドパンツのようなものにする事で表現した。両者のトップスは左右反転した振袖にした。

トップスの表地に和柄を、裏地を紫で染色することになった。表地は首元と袖口に唐草模様を染色した。一回で柄が写すことができる大きな型が用意できないため、ひとつひとつ柄を合わせながら染色した。裏地は直接染料のバイオレットを使用して染色した。

1-3



◆担当アイテム：トップス

◆使用素材：表地：綿 金巾 裏地：キュプラ

平安時代にも着られていた着物をイメージした。現代風にアレンジを行う必要があったため、片方の袖だけを着物袖にした。着物の下に着る長襦袢をイメージして裏地を付けた。表地がシンプルで淋しいため、平安時代にもあった唐草模様を首元と袖にデザインした。

平安時代に身分の高い女性が装う十二単の色を参考にした。目立つ色合いにするために派手さと華やかさを表現できるようにした。

1-4



◆担当アイテム：パンツ

◆使用素材：綿ツイル

パンツはあまり目立つパーツではないので、メインのトップスや小物を映えさせつつ、何か柄ができないかと思い、主の色より濃い目の紺色で世界に1つの柄ができると話題のタイダイ染めをした。

源氏物語の当時の世界観や文化にも忠実にリアルに再現したいと思い、冠位十二階の仕組みを使って一番高貴の色に当たる紫色を主の色として紫色と紺色のタイダイ染めにした。

1-5



◆担当アイテム：ポンチョ又はスカート

◆使用素材：綿金巾、綿ブロード、ポリエステルダブルピケ、ナイロンジャージ

ズボンに馴染むように、全体的に大きめのサイズでイメージを膨らませました。また、ポンチョにもスカートにもなるようにしないといけなかったため、上から下に行くにつれて動きが出るようなデザインにした。

十二単から引用し12枚それぞれ色や柄が異なるカラフルな布を黒の土台である布の上に置くことで、目立たせるようにした。

1-6 1-7



◆担当アイテム：スカート

◆使用素材：綿ブロード、ポリエステルダブルピケ、綿金巾、ナイロンジャージ

源氏物語を連想させる十二単を表現するために、六つの柄と六つの無地を組み合わせた12個の生地を繋ぎ合わせて衣装を作った。無地と柄を交互に重ね合わせることでバランスを取りつつ、フリルスカートのようになった現代っぽさを出した。

1-8



◆担当アイテム：帯

◆使用素材：綿ツイル

帯は全体の小物部分になるのでメインであるトップスやボトムをうまく引き立たせながら、帯もしっかり見せたかったので色や模様をこだわった。

帯の色は天皇家が「即位の礼」でお召しになった高貴な色の黄櫨染をイメージしながら、スカートの十二単の色とも合うように、黄土色で染色をした。また柄も綺麗に見せたかったので、土台の色と柄の色の明度差を大きくする事を意識した。